

渇水を乗り越えたリュウキュウアユ

記 者 発 表 資 料

沖縄総合事務局北部ダム事務所では、リュウキュウアユ復元活動の一環として平成4年から北部のダム群でリュウキュウアユの陸封化（ダム湖を海の代わりとしてダム上流河川との間を行き来して生活）を行っており、今年もダム上流河川で元気なリュウキュウアユを多数確認しました。今回は、昨年末から今年始め（リュウキュウアユの産卵・ふ化～稚魚遡上開始と重なる重要な時期）にかけての記録的な少雨でダムの水位が大きく下がったため、リュウキュウアユの数が激減するのではと危ぶまれておりましたが、今年8月の調査では福地、安波、辺野喜の3ダムで例年以上の数（約4万8千匹）のリュウキュウアユを確認しました。

放流後約10年間、年毎に個体数の変動はあるものの、それぞれのダム湖でリュウキュウアユがきちんと世代交代を繰り返していることが改めて確認されました。

平成16年10月13日

沖縄総合事務局
北部ダム事務所

問 合 せ 先

沖縄総合事務局 開発建設部 河川課
水資源開発調整官 与那覇 忍
TEL (098) 866-0031 内線3616

沖縄総合事務局 北部ダム事務所
調査設計第一課 大島 伸介
TEL (0980) 52-0531 内線351

渇水を乗り越えたリュウキュウアユ

○リュウキュウアユは、1988年（昭和63年）に元琉球大学の西田睦氏によって本土産アユとは遺伝的に異なる琉球列島固有の亜種として報告されています。亜種とは、学名が与えられる最小の分類単位で、本土のアユと同じ種に属しますが、地理的に隔離され、明瞭な特徴を持つ集団であり、リュウキュウアユは100万年以上の期間にわたって琉球列島で独自の進化の道をたどってきたものと考えられています。

○沖縄本島では1978年（昭和53年）に採取されたのを最後に姿を消したとされており、環境省のレッドデータブックでは「絶滅危惧ⅠA類」として指定されています。

○北部ダム群におけるリュウキュウアユの陸封化の取り組みは、平成元年度に「ダム事業に係る生物調査委員会（現北部ダム生態系保全検討委員会）」からダム湖での陸封化の提言を受け、翌年には福地ダムでリュウキュウアユの生息環境調査を実施し、生息は十分可能であるとの結果が得られたことから、「リュウキュウアユを蘇生させる会」を中心とする関係機関の協力のもと、平成4年7月に最初の放流が福地ダムの上流支川で行われました。

○その後、自然環境等の変動による個体絶滅の危険を分散するために、平成6年7月には安波ダムで、平成7年6月には辺野喜ダムでも陸封化のための放流が行われました。

○北部ダム事務所では、3ダムでの放流後、定期的に生息個体数のモニタリング調査を行っており、経年的な変動はあるものの、きちんと世代交代がなされ、各ダムにリュウキュウアユが定着していることが確認されています。

○平成15年度は、年間累計雨量が那覇で1457.5mmと平年値の約70%程度しかなく、昨年末頃から急激に国ダムの貯水量が減少していき、福地ダムにおいては今年の3月20日にEL69.17mの最低水位（常時満水位はEL83.5m）、安波ダムでは4月23日にEL87.62mの最低水位（常時満水位はEL103.5m）、辺野喜ダムでは2月1日にEL169.02mの最低水位（常時満水位はEL173m）を記録しました。6月以降は台風などによる降雨があり、現在は貯水位が回復しています。

○リュウキュウアユの産卵時期である11月下旬から3月初旬にかけては、ダム貯水位の低下でリュウキュウアユの産卵場所の河川環境が変化したことから、例年と比べて産卵場所が小型化・分散化傾向にありました。また、産卵適地とは思われない場所での産卵も多数確認されたことから、次の世代の生息個体数の減少が懸念されていました。

○今年8月に3ダムでのリュウキュウアユ生息個体数のモニタリング調査を行った結果、福地ダムの同月の平均確認個体数が4653尾であるのに対して今回確認された個体は6569尾、安波ダムは平均10479尾に対して38167尾、辺野喜ダムは平均1253尾に対して3157尾であったことから、リュウキュウアユが今回の渇水を無事に乗り越えたことが確認されました。なお、安波ダムについては、平成6年の調査開始以来、過去最高の確認尾数となりました。

リュウキュウアユの生息場所となっている福地ダム上流の支川（サンヌマタ川）
（写真は上流から貯水池の方向を向いて撮影）
平成16年4月22日撮影

撮影当日の福地ダムの貯水位
EL71.79m
福地ダムの常時満水位
EL83.5m
（常時満水位から11.71mも低い状況）



（撮影箇所は安波ダム等から福地ダムへ水を送る調整水路の注水口となっているため、注水による洗掘防止を目的として根固めブロックや護岸が整備されているが、周辺は人工構造物のない自然河川となっている。）

○写真撮影箇所



サンヌマタ川を元気に泳ぎ回る
リュウキュウアユ
（平成16年7月6日撮影）

